

## 2024年3月期 通期決算概要

- 通期業績は自動車用ガラス事業の改善が継続し増収増益。純利益は多額の減損損失を計上した前年度対比で大幅な黒字に転換
- 2025年3月期通期業績予想は、増収、営業増益だが税引前利益、当期利益、純利益は前年にロシアJVの一過性利益を認識したため減益の見込み。新中期経営計画の下、引き続き業績、財務体質改善に注力
- 中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づき、持続的な成長が可能な事業体質を目指して3か年度にわたり推進した主要施策が財務基盤の着実な回復に貢献。自己資本比率およびフリー・キャッシュ・フローは3期連続で目標数値を上回る
- 新中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」の詳細は2024年5月13日に公表予定

### 1. 2024年3月期 通期決算

- 累計の売上高は8,325億円（前年度比+690億円、+9.0%）、営業利益は359億円（同+10億円、+3.0%）と、増収増益を継続。自動車用ガラス事業の大幅な改善が寄与
- 第4四半期（1-3月期）の売上高は2,198億円（前年同期比+225億円、+11.4%）、営業利益は38億円（同△69億円）。増収だが、営業利益は欧州における経済減速の影響を大きく受け減益
- 個別開示項目（純額）は1億円となり、欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失を計上した前年から452億円の改善。金利上昇に伴い金融費用が282億円に増加する一方、当第1四半期にジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社の売却に伴い金融債権の減損損失の戻入益37億円と、持分法投資に関するその他の利益10億円を計上。純利益\*は106億円となり、多額の減損損失により純損失を計上した前年度比で大幅な黒字に転換（前年度比+444億円、前年度は338億円の損失）
- 自己資本比率は12.3%（前期末比+2.1pt）に回復。  
フリー・キャッシュ・フローは、1-3月期では276億円のプラス（前年同期比△76億円）、累計でも153億円のプラス（前年度比+14億円）となり3期連続でRP24の財務目標数値を上回る

### <損益計算書および財務指標>

(億円)	1-3月期（3か月）			通期（12か月）			2024年3月期 通期業績予想
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	
売上高	1,973	<b>2,198</b>	225	7,635	<b>8,325</b>	690	8,400
営業利益	107	<b>38</b>	△69	348	<b>359</b>	10	420
営業利益率	5.4%	<b>1.7%</b>	△3.7pt	4.6%	<b>4.3%</b>	△0.3pt	5.0%
個別開示項目（純額）	△12	<b>△8</b>	4	△452	<b>1</b>	452	0
個別開示項目後営業利益（△損失）	94	<b>29</b>	△65	△103	<b>360</b>	463	420
金融費用（純額）	△61	<b>△78</b>	△17	△174	<b>△282</b>	△108	△290
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	<b>37</b>	37	40
持分法による投資損益	20	<b>14</b>	△6	73	<b>51</b>	△22	50
持分法投資に関する その他の利益（△損失）	△4	<b>△0</b>	4	△15	<b>10</b>	25	10
税引前利益（△損失）	49	<b>△35</b>	△84	△219	<b>176</b>	395	230
当期利益（△損失）	38	<b>△32</b>	△69	△310	<b>109</b>	419	140
純利益（△損失）*	34	<b>△29</b>	△63	△338	<b>106</b>	444	130
EBITDA	207	<b>168</b>	△39	750	<b>818</b>	68	
フリー・キャッシュ・フロー	353	<b>276</b>	△76	139	<b>153</b>	14	

\*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

(億円)	2023年 3月末	2024年 3月末	増減
総資産	9,514	<b>10,076</b>	562
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,243	272
自己資本比率	10.2%	<b>12.3%</b>	+2.1pt

## <各事業の概況>

建築用ガラス事業	増収だが欧州の経済活動減速の影響を受け減益。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続、12月からマレーシアの新設備での生産開始
自動車用ガラス事業	事業全体では大幅な増収増益を継続。自動車生産制約の緩和に伴い、販売数量が増加し、原材料およびその他コスト上昇の影響を転嫁するための価格改善交渉も引き続き進展
高機能ガラス事業	円安により増収だが、IT市場減速、原燃材料およびその他コスト上昇、売上構成悪化の影響を受け減益

(億円)	2023年3月期		2024年3月期		差異	
	1-3月期	通期	1-3月期	通期	1-3月期	通期
<b>売上高</b>						
建築用ガラス事業	903	3,659	973	3,718	70	58
自動車用ガラス事業	963	3,547	1,117	4,176	154	629
高機能ガラス事業	90	388	103	399	13	12
その他	18	41	6	33	△ 12	△ 9
<b>売上高合計</b>	<b>1,973</b>	<b>7,635</b>	<b>2,198</b>	<b>8,325</b>	<b>225</b>	<b>690</b>
<b>営業利益</b>						
建築用ガラス事業	74	336	29	291	△ 45	△ 45
自動車用ガラス事業	52	41	20	113	△ 31	73
高機能ガラス事業	15	87	15	71	△ 0	△ 16
その他	△ 34	△ 115	△ 26	△ 117	8	△ 2
<b>営業利益合計</b>	<b>107</b>	<b>348</b>	<b>38</b>	<b>359</b>	<b>△ 69</b>	<b>10</b>

## 2. 2025年3月期 業績予想


- 増収、営業増益だが、前年にロシアJVの売却に伴う一過性利益を計上したため、税引前利益、当期利益、純利益\*は減益を見込む。新中期経営計画の下、引き続き業績、財務体質改善に注力
- エネルギー価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続
- 欧州の経済減速は当面続くが、コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続

## <業績予想>

(億円)	2024年3月期 実績		2025年3月期 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
<b>売上高</b>	<b>4,202</b>	<b>8,325</b>	<b>4,100</b>	<b>8,400</b>	<b>△ 102</b>	<b>75</b>
<b>営業利益</b>	<b>260</b>	<b>359</b>	<b>160</b>	<b>370</b>	<b>△ 100</b>	<b>11</b>
個別開示項目(純額)	3	1	-	-	△ 3	△ 1
<b>個別開示項目後営業利益</b>	<b>263</b>	<b>360</b>	<b>160</b>	<b>370</b>	<b>△ 103</b>	<b>10</b>
金融費用(純額)	△ 140	△ 282	△ 140	△ 290	0	△ 8
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	37	37	-	-	△ 37	△ 37
持分法による投資利益	22	51	25	50	3	△ 1
持分法投資に関するその他の利益	11	10	-	-	△ 11	△ 10
<b>税引前利益</b>	<b>193</b>	<b>176</b>	<b>45</b>	<b>130</b>	<b>△ 148</b>	<b>△ 46</b>
<b>当期利益</b>	<b>105</b>	<b>109</b>	<b>20</b>	<b>60</b>	<b>△ 85</b>	<b>△ 49</b>
<b>純利益*</b>	<b>98</b>	<b>106</b>	<b>10</b>	<b>40</b>	<b>△ 88</b>	<b>△ 66</b>

\*親会社の所有者に帰属する当期利益

### 3. リバイバル計画 24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗




## リバイバル計画24 (RP24) の主な進捗

持続的な成長が可能な事業体質を目指して3か年度にわたり推進した主要施策が財務基盤の回復に貢献

### 3つの改革

- **コスト構造改革**
  - ・ 欧米の自動車用ガラス事業を中心に拠点、製造ラインを統廃合、コスト削減 (2020年3月期比約2,340人、労務費約180億円の削減)
  - ・ 各事業において価格改善 (約800億円) を実現
- **事業構造改革**
  - ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
  - ・ 高成長事業 (太陽電池パネル用ガラス) への投資
    - マレーシアの既存フロート窯を太陽電池パネル用ガラス設備に転換
    - 米国オハイオ州ロスフォードの既存窯の設備転換が進捗 (2025年1~3月の稼働開始を予定)
- **企業風土改革**
  - ・ 「Inclusion & Diversity (I&D)」を「Diversity, Equity & Inclusion (DEI)」に発展
  - ・ 全従業員意識調査「Your Voice」の結果を踏まえ、改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を策定
  - ・ 4つのF (Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定、そして職場でのFun) の推進による社内風土の変革



## リバイバル計画24 (RP24) の主な進捗

持続的な成長が可能な事業体質を目指して3か年度にわたり推進した主要施策が財務基盤の回復に貢献

### 2つの重点施策

- **財務基盤の回復**
  - ・ 営業利益率 : RP24開始時から改善したが、4.3%と目標未達
  - ・ 純利益 : 3年累計190億円の純損失。のれんと無形資産の減損損失により数値目標は未達
  - ・ 自己資本比率 : 12.3%と3期連続で目標数値である10%を上回る
  - ・ FCF : 153億円となり、3期連続で目標数値の100億円を上回る

	(参考) 2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2024年3月期 目標
営業利益率*1	2.6%	3.3%	4.6%	4.3%	8%
純利益 *2	△ 169億円	41億円	△ 338億円	106億円	3年累計 300億円以上
自己資本比率	7.6%	15.5%	10.2%	12.3%	10%以上
フリー・キャッシュ・フロー	△ 45億円	223億円	139億円	153億円	100億円以上

\*1 個別開示項目前営業利益率 \*2 親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

- **高収益事業へのポートフォリオ転換**
  - ・ バッテリーセパレーター事業の売却
  - ・ 中国における自動車用ガラス事業の再編
  - ・ JV売却に伴いロシア市場から撤退

#### 4. 新中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」について

## 新中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」について NSG GROUP

企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す。  
詳細は2024年5月13日に公表予定

**リバイバル計画24 (RP24)**  
～2024年3月期

収益性の着実な改善を果たしてきたが、  
利益率は依然として低水準

**2030 Vision: Shift the Phase**  
2025年3月期～

4Dを軸とした戦略を通じて収益性を強化、  
現金創出力強化により有利子負債の抜本的な削減を  
推進し、自己資本を増強

	RP24目標	2024年3月期 実績	達成状況
営業 利益率	8%	4.3%	×
純利益	3年累計 300億円	3年累計 △190億円の純損失	×
自己資本 比率	10%	12.3%	○
フリー・ キャッシュ・ フロー	100億円	153億円	○

➔

**4つのD**

- Business **D**evelopment
- **D**ecarbonization
- **D**igital Transformation
- **D**iverse Talent

収益性  
(P/L)

➔

キャッシュ  
創出  
(C/F)

➔

財務基盤  
の安定化  
(B/S)

<お問い合わせ> (報道関係等) 広報部

Tel : 03-5443-0100